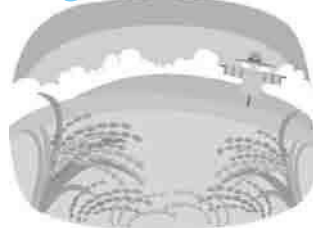


しまなみ農業だより

今春は 必ず剪定 しましょう！



今年の温州みかんは表年です。夏に摘果しても摘果しても追いつかず、しんどい割に値段はさっぱりで、売るみかんの無かった昨年とさほど変わらない収入に陥ることを春から保証しておきます。毎度摘果しながら思います。「このみかんが去年あつたら…」なぜこうなるかというと、結局のところ結果母枝の有無に尽きます。結果母枝は剪定と施肥で作ります。今年やらなければならぬのは、来年の結果母枝作出のための剪定であり、春季剪定は同時に今年の摘果軽減も期待できます。昨年結果不良の樹では、今春絶対に剪定しなければなりません。

① 大枝を整理し水平方向、垂直方向に窓を開ける

まずは剪定鋸を持ち、大枝の整理をします。「水平方向に窓を開ける」とは、側枝の棚構造を作ること。下部の側枝上からの立ち上がり枝群、上部の側枝からの垂れ下がり枝群を除去して空間を作ります。「垂直方向に窓を開ける」とは、主枝、亜主枝から末広がり状

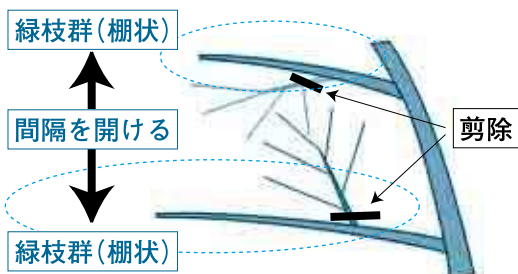


図1 水平方向に窓を開ける

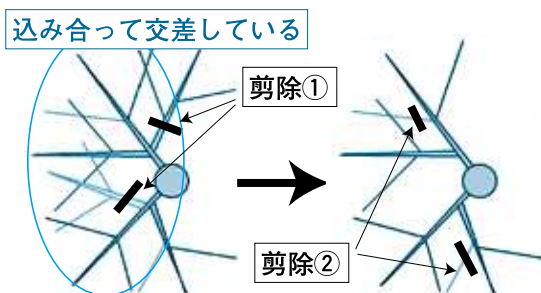


図2 垂直方向に窓を開ける

に発生している側枝群を整理します。めやすは樹冠外周から体を入れて主枝に触れることができるようにすること。今の時点で樹冠内に入れないようなら、新梢発生以降の樹冠内管理ができないということであり、夏季の摘果管理が充分行えるわけがありません。

大枝の剪除の場合は切り口をなるべくきれいに、あまり切り残しの枝を作らないようにしましょう。

大枝を剪除しますと、かなりの剪定クズが発生し、充分剪定した気分になりますが、今年はいまだに足りません。細かい枝をちよきちよきと剪定鋸で切り除く必要があります。

② 1年枝（結果母枝）を整理する

現在、葉が着生している細い枝はすべて結果母枝で、今春びっしりと着花します。弱い枝、

樹冠内部の枝にまで着果しても、結局すべて摘果しなければならなくなりますから、今のうちに枝ごと切り返しておきましょう。下向き、弱い枝は剪除、樹冠の半分より奥側は特に丁寧に行います。やや強めの枝も、時々は切り返して予備枝としましょう。

③ 樹冠先端部はなるべく切り返す

上島でよくみられる樹齢の昂進した樹での樹勢低下の原因に、主枝先端付近の結果過多（摘果不足）が挙げられます。今年は樹冠の高いところに果実をならせる必要がないので、今のうちに結果母枝をせつせと切り返しておきましょう。樹高の切り下げでも良いです。主枝先端部は必ず芽で終わるよう心がけておかねばなりません。

今年は枝葉を剪定前の半分以下にするつもりで剪除し、剪定後に樹の向こうの景色がうつすら見えるくらいに仕上げなければいけません。剪定作業は上手にかつこよく仕上げる必要は全く無く、良い果実を採るのが目的の全てです。今春枝葉を切り返すことは、今夏の摘果作業の免除と来年の果実の貯金につながるものと考えてください。

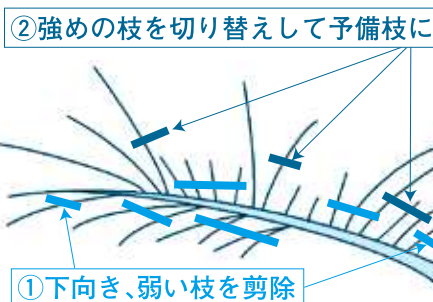


図3 側枝上の結果母枝管理